



LoveP
ラブベツトプラチナ

おっぱい
お尻
おまんこ
お乳
おまんこ
お乳
おまんこ
お乳
おまんこ



姉●崎ネネ。3人の中で一番大人びていて、体つきはいかにもオヤジどもが食いつきそうなムチムチボディだ。彼女自身も年上が好みのようで、簡単に落とせた。面倒見がいらしい彼女は何かと頼られることも多く、いつも世話役を買っていたらしい。



頼られるのは嫌いじゃないが、たまには甘えてみたいという欲求が高まったいたようで、優しくしてやるとコロツと行った。気になっていいる男はいるようだが、お構いなしにハメまくってやった。おかげで今では交尾をするための旅行でもこうしてホイホイついてきて野外露出という変体行為にも応えるようになった。

この女は●嶺マナカという名前で、テニス部所属で学園のアイドル的存在だ。白い肌に程よく引き締まった身体。しかし出ているところはちやんと出ている。さぞかし学園では格好のオナネタなのだろう。



清純なお嬢様…、表の顔は。裏ではある会社の社長のペットだ。親が懇意にしている会社の社長らしく、そこを取っ掛かりに堕としたそうだ。親からの信頼は厚いのでこんな旅行にも余裕で連れてこれる。まったく、うらやましい限りだ。実際はこんなことをしていると知ったら卒倒すること間違いなしだ。スワップ可の温泉旅行なので、たつぷりと楽しませてもらおうことにしよう。ふふふ。

この小さな女の名は小●川リンコ。乱暴な性格だったらしく取り入るのは中々大変だったそう。複雑な家庭環境みたいで愛情に飢えているのを感じ取ってからは、そのスキマに忍び込むようにして落としていった、ということだそう。なんともヒドイ男である。(笑)



表面上はツンケンとしているが、相当懐いているようで、俺たちのペットと同じく露出行為を指示するとその可愛らしいオマンコを披露してくれた。ちなみに、相当感度がいいらしく、今も何もしていないのにトロトロと気持ちよさそうな汁を垂らしている。

旅館に着き、部屋に着くと早速交尾大会が始まった。果実をいただくためには、まず自分から身を切らないといけない。ということ、自分のペットであるネネを差し出した。

「じゃあ遠慮なく…」と社長は言い、裸になると、よつんばいでケツを向けてさせていたネネのオマンコにペツ、とツバを塗りたいくらい、ガチガチに勃起したチンポをズブリ、と突っ込んだ。

「ダメえ」と言葉では抵抗を示すネネだが、今日初めて会った男に、一発で孕むかも知れない生チンポを突っ込まれ、そのシチュに大興奮の様子で、すぐにヌチヨヌチヨとオスを悦ばせる汁を排出させ始めた。

あ

ん

ダメ

ヌチヨ

ヌチヨ

ヌチヨ

2、3分腰を振ってノツてきたのか、ネネはエロ声を出し始め、濃い肉色の秘部はいつそうヌメツてきた。

パンツ!

ぬめぬめ...

快楽に負け、すぐに身を許してしまうビッチに調教したのは俺だが、内心少しイラツとする。だが、これもスワップिंगの醍醐味というものだろう。お互いのパートナーが他のチンポやマンコでアへる姿は興奮もする。そして嫉妬の入り混じった感情を着に興奮した粘膜をこすりあう。この快楽は他ではなかなか味わえない。

パンツ!

パンツ!

そんな思考をめぐらせていると、社長はそろそろ限界が近いのかハアハアヒイヒイと声を荒げ始めた。ネネも自分を気持ちよくさせてくれる肉の棒の魅力に夢中になっていた。

ほめ
あん♡

ん♡

社長は一段腰を大きくネネの陰部に打ち付けると大きなキンタマをひくつかせ射精した。

ブルブル

ジュジュジュジュ!!
ジュジュジュジュ!!

ピクピク

チンポがしゃくりをあげ、汚らしい尻の穴が収縮する度にネネの子袋が俺以外の孕み汁で満たされていく。彼女もその脈動を感じ取り、身を硬直させオスの精子を受け取る。

あ.....!!



社長はひとしきり肉欲を吐き出すと、ネネの体から離れた。
コポコポとピンク色の穴ポコからたっぷりの
臭いチンポ汁がこぼれ落ちた。

コポオ...

コポコポ

コポコポ

ピクッ

はっ

はっ

はっ

ネネも絶頂には達しなかったようだが
たっぷりとチンポをしごき、オスを満足させた
愉悦からかピクピクと体をうごめかせ、トロンと
した瞳をこちらに向けていた。

さて、お次は俺の番だ。たっぷりと楽しませてもらうぞ。
俺は社長にことわりを入れたあと、マナカをコロロン、と寝転がせ、片足を俺の肩に掛けさせた。少々腰に負担を掛けさせる格好だが、密着度が増し、結合部もハッキリと見せつけられる。

腰の負担を軽くするように、片方の手でマナカの腰を持ち、空いた手のほうでキメの細かい白い肌を揉みしだいた。
ふにゆふにゆ… フトモモ、腹、オツパイ、どこを触っても柔らかい。ネネのプリプリの弾力肌とは正反対の感触で面白い。
いじられた若い肌は悦ぶようにサツ、と朱の色に染め上げた。

舌と舌をねつとりと絡ませ勃起したチンポでペチペチとマンコを叩いていると辛抱ができなくなってきたのか、マナカはチンチンをねだるような切ない目で俺を見つめてきた。

はあ

はあ

ピクン

ピクン

フッフ



もつとじらせたいたいところなのだが、あまりにも懇願するような瞳で見つめてくるものだから
早めにチンポを突っ込んでやった。

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

うお…これはなかなか…

「吸い付いてくる」とでもいうところだろうか。空気の間間もないぐらい
ピッタリと絡みつく肉壁は俺のチンポをあつという間に追い詰めていく。
空気の入りやすいこの体勢でこれなのだから、普通の体位では3分も持たないだろう。

一方のマナカも、俺のチンポは気に入ってくれたらしく、スケベ声をあげ交尾に夢中になっていた。



しばらくヌポヌポと俺のチンポの味を染み込ませながら、淫猥な言葉を投げかけてやると
マナカは面白いように恥ずかしがり頬を染めた。しかし体は正直で、きゅんきゅん、と
オマンコは悦びうねりたくつている。

ビュッ

ビュッ

ビュッ

?!

ちゅっ

その動きは実に絶妙で、スパートを掛けるタイミングも取れず
思わずザーメンを漏らしてしまった。



俺は軽い敗北感を味わいつつも、ヒクヒクと締め付けてくるエロ肉に情けなくチンポ汁を絞り取られる。

たつぷりと吸い尽くされた後チンポを引き抜くと、流れ落ちるザーメンにまみれたオマンコの入り口が一定の間隔でヒクツ、ヒクツ、と痙攣を繰り返していた。アナルも連動してパクパクとうごめいている。もしかして…イッたのか？

深ッ!

ヒクッ
ヒクッ

シロクッ

ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

マナカを見てみると、先ほど以上に頬を赤く染め、瞳はうつすらと涙まで浮かべながら、バツの悪そうに視線を逸らしていた。



マナカとのオマンコ後、雑談をしながら楽しくワイワイと休憩を…
ということもなく、エロ話で興奮した俺たちは思い思いに近くにあるマンコにチンポを突き立てていた。

ズッポ♡

ズッポ♡

ズッポ♡

ズッポ♡

リンコはペットたちの中では一番小さく、オマンコも比例して毛も生えていないぐらい小さく可愛らしかった。
こんなロリマンでちゃんと入るのだろうか?と思ったが、そんな心配はまったくの杞憂で、しっかりとチンポを啜えこんでくれた。

はん!

ん!



可愛い声で鳴きまくるロリメスをズコズコと突きまくってやった。
感度が良いというのは本当のようで、確認しただけで2回はイッていた。
小さな胸から突き出したピンク色の乳頭が、パイインと張り詰め、
ヒイヒイとあえぎながら本当に気持ちよさそうな顔をさせる。

性行為に問題ないとはいえ、他のペット達に比べれば小さいマンコの
締め付けはキツく、ほどなく俺もリンコマンコにイカされた。



ギョッ

メユホン...

体の相性が良かったのか、とても気分良くセックスができた俺たちは、行為が終わったあとでもお互いの汁まみれの体をいじくりあった。

ジュジュ

ぬ

と

お

〜♡

おん

あ

ずっと体を密着させ、ペロチューしまくりながら、始まったばかりの淫行旅行に期待で胸を弾ませていた。

精子や愛液の臭いで生臭くなったので
全員で温泉に向かう。
もちろんそれは口実で、メインの温泉Hに
胸をワクワクさせていた。

そうして風呂場に
着たが、ただ単に
セックスをするだけ
ではつまらないので
ペット達には「水着」を
着てもらった。
何にも隠せない、
そのヒモだけの水着に
3人は流石に
恥ずかしそうだった(笑)



リンコがすっかり気に入っていた俺は、温泉でも生ハメセックスをしてやった。相変わらず言葉遣いはぶっきらぼうだが、うれしがっているのは見え見えだ。可愛らしいオツパイをプルプル震わせながら、俺のチンポを味わい尽くそうとみだらに腰を擦り付けてくる。

はぁはぁ

はぁはぁ

プルッ
ッ

プルッ
ッ

ビクビクビク

ヌクッ
ッ

ヌクッ
ッ

ヌクッ
ッ

途中から足を閉じさせ、狭いオマンコをもつときゆうきゆうにした状態でヌコヌコとほじくる。内腿の肉付きは良いので、密着感が素晴らしい。アナルも指でにゆるにゆるいじってやるとリンコは一層気持ちよさそうにアヘアへとよがり出した。

ははは。またイツてるな。

小さな体をビクンビクンと震わせながら、瞳は中空をうつろにさまよい意識がどこかに飛んでしまっている。

かまわず俺はアクメマンコをズボズボ突いてやるとさらにどこかにブツ飛んでしまいオマンコとアナルはずっとヒクヒクパクパクさせていた。

ヒクッ!
ヒクッ!
ヒクッ!

!!!
!!!
!!!





リンコもそれに応えるように
何度目かもわからないアクメに
ビクビクと体をうち震わせていた。

それから、指がふやけるほどの時間、何度も何度も
オマンコをいじめ倒してやった。
途中からは潮を吹き、一度、カクンと意識も失った。
イキやすい体質らしいがここまでスケベな状態に
なるとは思っていなかったらしく、リンコの飼い主は
かなり複雑な表情でこちらを見ていた。
俺はそいつの知らないスケベリンコを引きずり出したことに
優越感に浸りながら、濃厚な液体を彼女の子袋に注ぎ込んだ。

ピクピク!

ピクピク!!

ピクピク

ゴゴゴ!!

ピクピク



いつまでもつながっていたかったが、流石にそういう訳にもいかないの
ヌポン、とチンポを引き抜いた。

リンコはまたブルツと身を震わせ熱っぽい視線を俺に向けていた。

ドロン

びしょ

エロ水着を着けた3人を視姦し堪能した俺たちは、入れたいマンコを手元に引き寄せせる。



社長は自分のペットのmanaカ、俺は先ほど相性が良かったので引き続きリンコ、ネネはリンコの飼い主が担当した。



立ちバツクでオマンコ。ゆさゆさと揺れるオツパイにエロ水着が食い込んで何ともエロティックだ。パンパンと心地よい音がリズム良く打ち鳴らされ、それにメスたちの嬌声がハーモニーを奏でる。

もう隠すことなど無くなっている俺たちは、本性もあらわにサルのごとく腰を動かす。

親ほど歳が離れているオヤジたちの高速ピストンに、ネネとマナカは息も絶え絶えにアンアンとスケベ声を上げて快樂に飲み込まれている。

ネネは、不意に尻をピシヤツと叩かれ、本日の初イキを許してしまった。クソツ(笑



社長も流石はマナカの飼い主。どこをどうすればスケベになるかよく心得ている。腰の角度を変えるとマナカはあつという間にアヘアへと言い出し絶頂に持っている。

あはははは

ゼッ! ゼッ!!

んんん

ゼッ!

ネネも初アクメで火がついたのか、大きな声を上げてチンポをしごいていた。

ゼッ! ゼッ!!

んんん

んんん

ザッ!!

適度にエロ肉を堪能したオヤジたちは、プピュツ、と遠慮なくマンコにザーメンマーキングをした。





オヤジたちの孕み汁をたっぷり受け取った2人の秘部はヌラヌラと塗れて怪しく輝いていた。



部屋に戻ってから浴衣は着させず、エロ水着を付けさせたままにしておいた。全員ほぼ裸のまま夕食。豪華な食事に舌鼓を打ちつつ、持ってきたノートパソコンから、今日ハメ撮った画像をアダルト画像の掲示板に貼り付ける。反響が良く、あつという間に返信コメントでいっぱいになった。

ゴポッ!

ゴッ

ん!

ん!

ん!!

ゴボン!

ん!

ん!

ん!

ゴッ

ゴッ!

自分たちのスケベな写真でオナツている男たちがいっぱいいるのを知って、彼女たちも大興奮したようだ。デザートに、とチンポを差し出したら、激しくむしやぶりついて来たので俺たちはニヤニヤが止まらなかった。

ん!

ついきつきまで美味しそうに食べ物
をほおぼっていた口が今はチンポを
啜えている。しかも股を濡らしながら
ノリノリで。



一心不乱に俺のチンポにむしゃぶりつくネネに「きつきは他の男の
ペニスでアクメしまくってたな」と攻めると、「だって…」
と云いつつアソコがきゅん、となるのを俺は見たのだった。

言葉責めに一層興奮したネネは、のどの奥まで届くぐらい大きく頭を動かして、チンポ全部をくわえ込んだ。根元から吸い尽くされるような口マンコと、内部でヌチャヌチャといやらしく動かす舌の感触に辛抱ができなくなり、口の中にデザートを注ぎ込んだ。

ビュビュビュ
ぷるぷる
ビュウウウ!!
!!!

のどの奥に感じる、生臭く熱いほとばしりを受けたネネは、触れてもいないのになんと絶頂に達してしまった。

きゅんん
きゅんん

トロトロ

きゅんん
きゅんん

ん

ん

ん

ん

尻叩きイキといい、のどマンコイキといい、
今回の旅行で、隠されていたスケベネネを
またひとつ知ることができた。

きゅんきゅん
ピョッピョッ

あふあふ

ざんざん

スッ
チョク
ネ〜

これは帰ってからがまた楽しみだな...と
ザー汁にまみれたチンポを見つめながら
潮を吹いているネネをみてそう思うのであった。





食後のデザートも済んだので、布団を敷き本格的に乱交大会を始める。

俺は、朝ヤツた時のリベンジとしてマナカを選んでハメた。
数十分掛けてじっくりと愛撫したので、今度は遅れを
取ることはないだろう。
…それにしても、なんて気持ちのいいマンコなんだ。



作戦は功を奏し、マナカは程なく絶頂に達した。目をギュツ、とつむり、アクメにビクンビクンとする体。極楽のマン締めを味わいながら、俺はパンパンとより激しくイキ中マンコをほじくった。

ピンピンに反り勃つ乳首。食いしばった歯とヨダレ。良家の
お嬢様とはとても思えない痴態を晒し、生ハメセックスで
アへりまくり。社長とのつながりが無ければこんな機会は
無かつたと思うと、より一層子作りに励んでしまう。

チンポのことしか考えられなくなっていたマナカに子作りしてもいいか?と聞くと
うん、と答えたので、安心して中出しをしてやった。

射精後も抜かずに2発目とかいろいろと無茶をしていたら途中からマナカがアへ顔になって戻らなくなった。何をやってもヒイヒイとよがり、オマンコはパタパタと開閉を繰り返している。流石にやり過ぎたか(笑)

その後正常な状態に落ち着くまでぎゅっ、と抱っこをしてやったが、あまりにモチモチでフニユフニユのエロ肌なので、思わず勃起し、結局3発ぐらいハメ直してしまった。当然、マナカはアへ顔に逆戻りだった(笑)



ラストはお互いのパートナー同士でハメの見せ合い。
自分のペットが一番だというふうもない男の見栄と意地で激しく責め立てる。
付き合わされる彼女たちもたまつたものじゃないだろうが、よくよく見てみるとても
気持ちよさそうにしているのでもあよしとする。



オヤジたちはほぼ同時にイッたが、女のほうでイッてるのはどうやらネネだけみたいだな。
ふふ、勝った！

どうでもよい勝利感で満足した俺は、よくやったネネマンコをヌコヌコと
小突いてやった。ネネはさらにビクン、と体を仰け反らせ、連続アクメを迎えていた。

ピクッ!

ゴ...!

ほおわ

ほおわ

ゴピクッ!!

ピクッ

あッ

ピクッ

ビク!!

ビク

ヌコ ヌコ!!!!

ヌコ

ゼク!

ビク!

ビクッ!

ヌ

ヌコ ヌコ



流石に動画だと恥ずかしがるのか、3人は必死に声を押し殺しているが、いつまで持つやら（笑）

最後は動画投稿用にカメラを回しながら逆駅弁スタイルでファック。チンポをズッポ嬉しそうにくわえ込んだオマンコを見せ付けるようにカメラに向ける。

はっ

はっ

はっ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

はっ

はっ

きゅん
きゅん

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

はっ

はっ

はっ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

ズッポ



チンポ汁を受け取ると、全員アクメの大絶叫（笑）

さっきまでイキまくってた淫乱マンコが耐えられるはずも無く
すぐにスケベ声を張り上げてマンコをパクパク。

あー!!
あー!!

あー!!
あー!!

きゅんきゅん...

あー!!
あー!!

あー!!
あー!!

きゅんきゅん...

あー!!
あー!!

あー!!
あー!!

きゅんきゅん...

ビクビク!!

ビク!!



もう何回中出しされたかわからないオマンコは
 ビクビクと、彼女たちの年齢にふさわしくない妖艶さが備わっていた。

って、リンコはアナルフアックされてるじゃないか。しかもちやんとイッてるし。
 くそ、オヤジめ。隠してやがったな。明日はリンコのアナルをたっぷりいじめてやる。

はぁはぁ...

はぁはぁ...

んんん...

んんん...

はぁはぁ...

はぁ

ズボ

ぽん

ぽん

ぽん

ズボ

ピク

ピク

ピク

ズボ



撮影の締めめに、風呂場から持ってきた桶に放尿させた。よつぽと今日のセックスは疲れたらしく、真黄色い尿が出た。

社長とリンコの飼い主はそのあと風呂に行ったので、俺はネネのオツパイ枕とマナカ、リンコの肉布団で床に就いたのだった。

あーん

んんん

んんん

んんん

んんん

オムムム

ムムム

ムムム

ムムム

ムムム

ムムム

ムムムムムム

ムムムムムム

それから数日。

俺は相変わらずこの温泉旅館でネネの体を
いじめ抜いていた。
スワッピングで色々と性癖が新たに開発されたので
旅行を延長して、さらなる開発にいそしんでいるのだ。

社長たちは一足先に帰っていった。
マナカは絶品の具合だったな。
また機会を取り持ってハメたい
と思う。

リンコとは体の相性が良かったので
飼い主に内緒で連絡先を教えあった。
飼い主とは精神的なつながりがある
ようなので奪うことは難しいが
セフレなら余裕だろう。



そんな俺の心のうちを知る由も無く、ネネは
目隠し&まんぐり返しの状態で
チンポを堪能していた。

目隠しされたことで感覚が鋭敏になっているのか、体の反応がいつもより激しい。

乳首をつねりながらパンパンしてやると一瞬で絶頂に達してしまった。

あははは
あははは
あははは

ゼク
ゼク

キュッ!!
キュッ!!

おは
おは





アクメの余韻を漂っているネネを喜ばせるように、やさしくオマンコのピラピラやクリトリスを舐めてやる。彼女は嬉しそうにヒクつき、尻をくいと持ち上げた。

「この旅行で孕んだかもしれない」と
ネネに言うと、困ったような、嬉しそうな
表情を浮かべた。

マンボクロつきのやらしいマンコは、ピクンピクンと
おねだりするようにうごめいていた…

